

土木技術映像の価値を再発見してみませんか

—眠っている映像資料を土木学会選定作品として審査・活用します—

土木技術映像委員会 委員長 大野春雄
 幹事長 安孫子義昭
 小委員長 寺田公彦・菊地敏男

1. はじめに

当委員会は、「土木技術者の啓発ならびに土木技術の普及を効果的に行うため、土木技術に関する映像について研究し、それを効果的に活用することにより、土木技術の継承および共有化を推進すること」(内規第1条)を目的として活動しています。

これまで土木技術に関する映像作品は、工事記録や災害記録、土木にかかわる歴史(人物・構造物・事業など)、土木技術の複雑な工程のビジュアルでわかりやすい伝達、教材としての利用など、さまざまな動機・目的からつくられてきました。産業映画として作成された本数は戦前を加えると数万本、土木分野に限っても1万本に及ぶといわれますが、これらは時代や環境の推移により、資料的価値や教育的価値など、多様な価値を生み出していきます。当委員会では、これらの映像作品を網羅的に調査・収集・整理し、多様な角度から評価し、容易に利用可能な環境を整備し、あらゆる機会を通じて公開・発信する場を設ける活動を行っています。

本報告では当委員会のなかの映像作品選定小委員会と映像アーカイブス小委員会の実践活動を中心に紹介するとともに、皆様のお手元に眠っている映像作品の発掘を呼びかけたいと思います。

2. 土木学会選定作品とは

土木学会では、官公庁、企業、各種団体などで数多く制作されている土木技術に関する映像作品を、企画・表現・内容・作品など多様な視点から評価し、一定の価値を有すると認められる作品を選定する「土木技術映像選定制度」を設けています。当委員会では選定審査会を設け、応募された作品を随時審査しています(応募方法は当委員会ホームページをご参照ください。文末にアドレスを示します)。

「土木学会選定」となった作品には、①土木学会誌やホームページ(以下 HP)への作品内容記事掲載、②土木技術映像作品データベース(以下 DB)への登録、③映像 DB での紹介記事全文検索の提供、④土木図書館映像ライブラリーへの登録・保管、⑤土木図書館での

会員や一般への貸出利用、⑥イブニングシアターでの上映、⑦土木学会選定の表記をチラシや映像のエンドロールにテロップ表示可能、⑧土木学会選定作品シール(図-1)の贈呈など、活用のためのさまざまな特典があります。加えて特に選定審査会での高得点を得た上位5作品については、隔年に開催される「土木学会映画コンクール」に委員会から推薦されることとなっています。

選定応募数は、作品媒体がフィルムからビデオへの転換期(1990年頃)に一時減少したものの、常時50本以上の時期が続いていましたが、近年は減少傾向にあります(図-2)。しかし応募されずに埋もれている映像は先に述べたように数多く存在しており、当委員会では過去の映像も含め、積極的に発掘を行っていきますので、皆様のご協力をぜひともお願いいたします。



図-1 選定シール

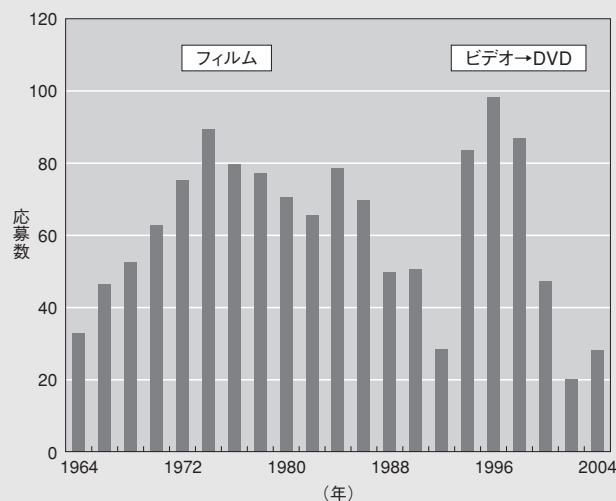


図-2 選定応募数の推移

3. イブニングシアターの開催

当委員会では「土木学会イブニングシアター」と題する一般公開の映画会を開催しています。2001年開始以降の開催回数は33回に及び、上映した作品は63本、参加された方は延べ約1,500人となっています。上映

作品には、土木学会映画コンクールの受賞作品（1964年以降142本）や、選定作品（1969年以降520本）のなかから毎回2、3作品を選び、主として



写真-1 イブニングシアター会場の様子

して土木学会講堂において上映しています。参加者にはアンケートのご協力をいただき、集計・分析して今後の運営に役立てています。またメーリングリスト（現在500名）に登録していただき開催案内などを送付しています（次号で詳細を紹介予定）。

4. 土木技術映像作品データベース

(1) 選定作品映像情報 DB

これまでに選定された映像作品520本の、タイトル、企画者、制作者、制作年、時間、概要などの属性情報はすべて「選定作品映像情報DB」に登録しており、当委員会HPに掲載しています。最新選定映像順のリスト表示と全文検索が可能となっており、利用者が目的とする映像を探し出す便を図っています（図-3）。

ここで一覧・検索できる映像作品の大部分は土木図書館に所蔵されており、会員や一般の方への貸出をしています。また、HP上で映像作品の内容確認が手軽にできるように、試験的に一部の映像を掲載しています。

(2) 『土木技術映像作品リスト』のDB化

また1996年に当委員会で編集し土木学会から発行した冊子体の『土木技術映像作品リスト』は、当時土木技術映像を所有している組織へのアンケートにより採録した2,700件の映像情報を収録しています。これをDB化し、所在情報・作品概要を含む映像情報の全文検索とともに、18の技術分類によるリスト表示もできるようになっています。



写真-2 試験映像のワンシーン

図-3
土木技術映像作品
DBメニュー

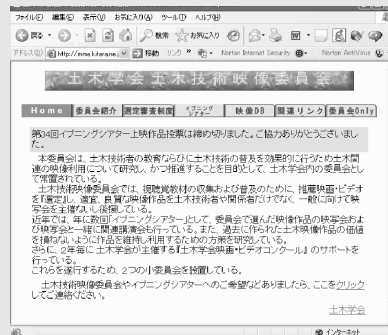
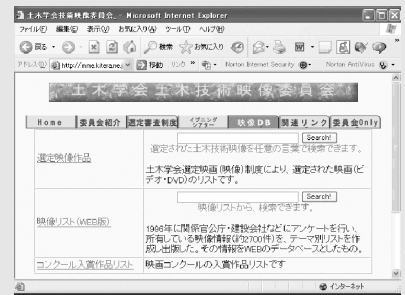


図-4
委員会ホームページ
トップ画面

5. 映像作品の多様な価値の活用例—教育場面への支援

学会選定の映像作品は多様な価値を有しておりますが、その活用例として教育場面での利用が想定されます。単に映像を流すだけでなく、より効果的に活用するためには、シーンごとのきめ細かな分類やキーワードの付与、作品周辺の情報（文献情報、人物情報、技術情報）とのリンク、技術用語の適切な説明などが必要となります。これを実現するための仕組みの検討や土木教育カリキュラムとのリンクの体系化を目指す教育支援システムの構築を計画しています。これには、資金もかかることから民間研究助成の獲得に努力しています。

6. おわりに

以上のように、当委員会の活動は多様な価値を有する貴重な映像資料を蓄え整理し、あるいは積極的に収集・評価し、将来に残していくことの責任を担っていると自負しています。多くの作品はフィルムやビデオといったアナログでの記録形式をとっており、品質の劣化は時間経過とともに進行します。このため、デジタル化が必要となりますが、多額の費用がかかるとともに著作権に対する慎重な行動が求められます。このような課題にも積極的に取り組み、土木技術者のみならず広く一般の方々に少しでも土木技術映像との接点を増やし、映像作品のもつ多様な価値をさまざまな場面で活用していきたいと考えています。当委員会の活動に対するご意見をお待ちしています。

（ホームページ： <http://mme.kitera.ne.jp/>）